

宮城県知事賞

いしもだふるさとほぜんかい

石母田ふる里保全会【加美町】



【心和む花街道】

本地域は、加美町の中心より西に約10キロに展開する農地で、水稻と畜産を主産業とする農村地帯である。地域資源である水田は、県内でも早く昭和44年から昭和48年に行われた県営圃場整備事業によって、30aに区画された圃場となっている。

【組織概要】 広域活動組織

- ・取組開始 平成19年度
- ・取組面積 245.3ha
(田 245.3ha)
- ・取組活動
農地維持支払活動
資源向上支払(共同)活動
資源向上支払(長寿命化)活動

取組にあたって

【課題】

過疎化や高齢化が進み農業従事者は年々減少し、新規就農者は極僅か。後継者の39.4%は他産業の従事となっているため、地域住民同志の交流やコミュニケーションが低下、農村環境に対する意識も希薄な状況となってきた。

【保全管理】

農業法人等との連携により大型機械をリースし、担い手の草刈り負担の軽減・集積促進を図っている。

土地改良区との連携により施設の保全管理を計画的に進めている。

小学校PTAと連携し、多面的機能の活動や担い手を育成する体制を構築する。



【めだかの学校・ほたるの学校・生き物調査】

取組の内容

本事業は農村の環境保全と土地改良区の維持管理賦課金の軽減化にも繋がることであるため、9集落を一つにした広域的な活動組織を立ち上げ積極的に推進を図ってきた。

農地維持の基礎活動や施設の軽微な補修、長寿命化の活動をはじめ、「人も資源」という考えのもと、地域の人材を活用し農村環境保全活動を展開している。

■農村環境保全

「心和む花街道」「ほたるの学校」「めだかの学校」等の景観形成活動、環境保全活動を実施。

■学校教育連携

年間を通じた宮崎小学校との伝統農法による農作業体験、環境学習、農業用施設の歴史の紹介等で地域交流や学校教育連携を図ってきた。交付金対象外の自主活動も積極的に取り組んでいる。

今後は、将来に向けた体制づくりのため「NPO法人化」を旨とし、集落営農法人等との連携や事務効率化を図り、担い手の負担軽減や事務作業の効率化を図りたい。

取組の効果

■地域の人材を適材適所で活用して活動を進めることにより、草刈り作業の負担軽減や施設の保全管理が効率的にできた。

■自分たちが参加して作った花街道は地域の癒しとなり、活動は年代を超えた地域のコミュニティの場となっている。

■学校教育と連携して自然農法や生き物の棲息環境等を学ぶことで、環境保全学習の場ができあがった。

■『人・農地プラン「石母田地区」』を独自に策定、町の認定を受けて担い手による将来の耕作放棄・集積対策を講じることができた。



【小学校の農業体験学習】